障害児教育雑記帳(2)

盲人の歩行が危ない!!

学校教育学部
障害児教育教室
❖ 山梨正雄

白杖では見つけられない障害物がある

盲人の多くは、白杖（はくじょう）を使って歩いている。ところが、残念ながら、白杖は、盲人の歩行の安全を十分には保障してくれない。

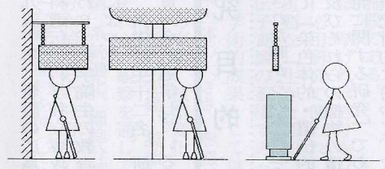
白杖は、本来、歩いていく前方にある障害物や路面の落ち込み（段差や穴など）を見つけるために使うものである。しかし、白杖の操作がどんなに正確だったとしても、白杖では見つけることができない障害物がある。白杖は、ほぼ腰の高さから下をカバーしてくれるが、下があいていて顔の高さにある障害物に対しては、何の役にも立たないのである。そんな障害物が実際に存在するのか、と思われるかもしれないが、街を歩いていると意外に多いのである。

以下にその代表的な例をあげ、皆様のご理解とご協力を仰ぎたい。

吊り看板・広告塔

商店や会社などの吊り看板や広告塔の中には、図1のように、かなり低いものがある。顔や頭をぶつけるかどうかは、盲人歩行者の身長による。最近は、一メートル八〇以上の身長も珍しくはないので、プレートの下縁を、せめて二メートル以上の高さになるように設置してほしい。

すでに設置されているもので高さの移動が困難であれば、図1の右のように、プレートの下の空間に、置き看板など別の物を置いて、下を通れなくするのも一つの対策である。



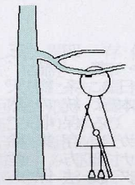
吊り看板　広告等　下の空間をふさぐ

【図1】

樹木の枝

街路樹は、本来は、通行人の頭に枝がかからないように手入れされているはずである。しかし実際には、図2のように、目が見える人でも、首をすくめて通らなければならないほど枝がたれ下がっているものがある。また、公園や住宅の敷地内の植木の枝が道路にはみ出して、人の顔の高さにかぶさっているものもある。枝の固いものや棘のあるものでけがをする場合もある。

このような枝は切りおとすよう管理を徹底すべきである。



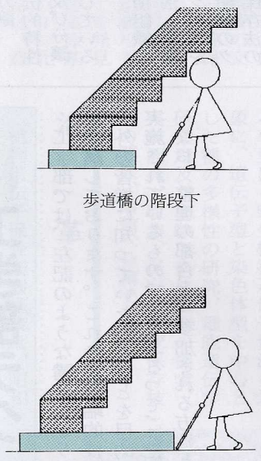
木の枝

【図2】

歩道橋の階段下

歩道橋の階段の下に図3のように入りこんでしまうと、額を激突させる危険がある。これは、盲人歩行者の身長に関係なく起こりうる。歩道橋の横を通行中に、自転車のベルを鳴らされて、思わず横に避けようとして、頭をぶつけたという例もある。これも、吊り看板の場合と同様に、階段下に入りこめないように、物を置いておくことで危険を防止できる。

また、図3の下のように、コンクリートの土台（少なくとも膝の高さまでは必要）を延長することも効果がある。



歩道橋の階段下

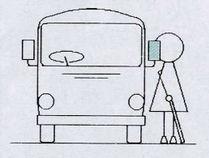
土台を延長する

【図3】

トラック、ワゴン車のサイドミラー

トラックやワゴン車の運転席や助手席の脇のサイドミラーが、大人のほぼ顔の高さになっている。これらの車が駐停車している場合、盲人歩行者はこれを迂回する際、建物側に通り抜ける余地があればそちら側を通るが、あまり広いスペースはあいていないので、車体にほとんどくっつくようにして通ることになる。また建物側に余地がない場合は、道路の中央側に出なければならない。この場合も、他の走行車に対する危険から、やはり止まっている車に沿って歩かざるをえない。

そこで図4のように、サイドミラーやそのアームに顔をぶつけることになってしまう。最近はこのミラーが大型化してきたので、ますますぶつける可能性が高くなってきた。このミラーは、もともとはたためるような仕組みになっているはずであるが、駐車中にたたまれているものを見かけたことがない。構造上の改善に期待するしかないのだろうか。



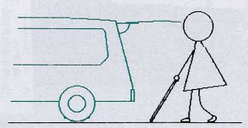
サイドミラー

【図4】

ワゴン車、ライトバンの後部ハッチバック

荷物の積み降ろしのために、ワゴン車やライトバンの後部のハッチバックを上にはね上げたまま駐停車していることがよくある。多くの場合、図5のように、白杖が後部バンパーに触れる前に、はね上げたドアの縁に額をぶつけてしまう。

ワゴン車は身長がかなり高くなければぶつかることはないが、バンは大人ならたいていは顔面の高さになる。このドアの縁は鋭いエッジになっているので、顔面を切る恐れがある。これも構造上の改善を期待したいが、せめて車を離れる際には、ドアを閉めておいてほしいものである。



ハッチバック

【図5】

援助の声と手を

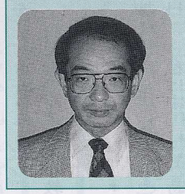
以上にあげた例は、比較的多く遭遇するものであるが、このような危険はこれら以外にも、道路に多く存在している。皆様の身近にこのような障害物（盲人歩行者にとっての）があったら、下の空間を埋めるか、撤去するなどの対策を講じていただきたいと思う。

また、これらの障害物に衝突しそうな盲人を見かけたら、衝突するかどうかを考えるより先に、まず声をかけて、手を引いてその障害物を迂回させていただきたい。

視覚障害者に限らず、すべての人々にとって道路は安全であってほしいものである。

プロフィール

（やまなし・まさお）
▽昭和十八年五月一日生まれ
▽視覚障害リハビリテーション協会会長
▽（広島県）視覚障害者の自立をすすめる会会長
▽歩行訓練士



第十一回アジア競技大会を成功させよう No.2

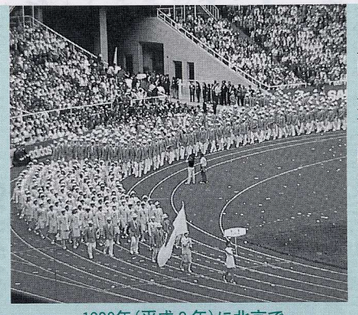
アジアオリンピック評議会（OCA）には四十三の国と地域が加盟

アジア競技大会の参加国・地域が加盟するOCAとは、Olympic Council of Asiaの略で、一九八二年十二月にアジア競技連盟（AGF）を継承して設立された。

現在、本部はクウェートに置かれている。会長はクウェート王族のシェーク・アーマド氏、副会長にはアジアの四地域ならびに次回の夏季および冬季大会開催地から各一名の計六名が選ばれている。

アジア競技大会の開催地

一九五一年（昭和二十六年）に、インドのニューデリーで第一回大会が開催されてから、今回の広島大会は第十二回目となる。この間、バンコクでは三回、ニューデリーでは二回、大会が開かれた。



1990年（平成2年）に北京で開催された第11回大会

広島大学吹奏楽団もPRに一役

三月十三日、本学吹奏楽団の約二十名は、大会二百日前記念イベントとして、本通商店街でミニコンサートを開催。大会イメージソングなどの演奏を行って、道行く人々に大会をPRした。

また、JR西日本では、大会のマスコットキャラクター「ポッポ&クック」をデザインしたPR電車を、大会終了までJR山陽本線の岡山―下関間で運行する。

憩い、ふれあい、交流の場となる選手村

メーン会場の広島広域公園陸上競技場（ビッグアーチ）に隣接して建設され、福山市内の分村に入村する女子サッカー、漕艇競技の選手・役員約四百人を除く約六千九百人が入村する予定。選手村は居住ゾーン、国際ゾーンなどに分けられ、宿舎のほか、トレーニング施設、レクリエーション施設、医療施設、交流広場、バスターミナルなどがつくられる。選手村では交流事業として、茶道・華道・着付けの講習会、民踊・郷土芸能の鑑賞、市民との交換会、コンサートなど幅広いイベントが計画されている。

感動の十五日間を見守り続ける聖火

前回大会の開催地・北京で採火した「アジアの火」と、広島の平和記念公園で採火した「平和の火」をひとつに合わせたものが聖火となる。聖火は分火され、中国、四国、近畿、九州の十七府県所在地と広島県内の全市町村を二コースに分かれて走行し、再び広島に入ってひとつとなる。

この聖火は十月二日の開会式で聖火台に点火される。

（広報委員長　辰巳　淳）